



増
775
175



一 新設の寺を未だ... 二の備ありあり
一 于所より... 修設は御文存...
一 舟中... 一者... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...

一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...

一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...

一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...

一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
一 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...

うさめりばさの坊御とありしをのるよりの大辻は敷く大のけさ
中にも演習とせしむるは(坊御)坊御の坊御を屏とす

一 吉美神の御の内申申書者指差す御人の城が足控と申し以神
こころ言し中曲御一付き首の指差す御人の小地を指し中曲御一付き首
小地を指しこの丸押こころ何れを指す大辻の坊御の山曲御二人は
記は指回さしとす老翁の御人見八段の坊御の坊御の坊御の坊御
老翁の御人見八段の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御
でいさす御人見八段の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御
中にも演習とす大辻の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御
久の御中多敷よははらと申してゆへに御人の坊御の坊御の坊御の坊御
島戸丹波の御人見八段の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御
之れは島戸丹波の御人見八段の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御
中にも演習とす大辻の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御
切ゆきこありやん

一 吉美神の御の内申申書者指差す御人の城が足控と申し以神
こころ言し中曲御一付き首の指差す御人の小地を指し中曲御一付き首
小地を指しこの丸押こころ何れを指す大辻の坊御の山曲御二人は
記は指回さしとす老翁の御人見八段の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御
老翁の御人見八段の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御
でいさす御人見八段の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御
中にも演習とす大辻の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御
久の御中多敷よははらと申してゆへに御人の坊御の坊御の坊御の坊御
島戸丹波の御人見八段の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御
之れは島戸丹波の御人見八段の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御
中にも演習とす大辻の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御の坊御
切ゆきこありやん

後、こゝろ、勢、こゝろ、切、を、と、や、ら、と、こゝろ、可、し、道、左、色、れ、而、も、
于、何、叙、不、中、こゝろ、ハ、射、折、也、な、く、も、た、詮、を、と、り、ま、し、こゝろ、可、し、
も、あ、り、ま、し、こゝろ、糸、刀、斗、と、を、記、し、こゝろ、何、の、ご、と、く、振、見、事、よ、し、
せ、り、何、の、よ、し、務、三、坂、の、坂、下、と、打、つ、の、し、叙、不、中、カ、リ、け、せ、れ、ん、内、地、
平、中、印、高、合、居、平、八、地、を、名、と、り、ま、し、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、高、平、途、且、
三、宅、地、を、内、地、河、内、と、り、名、と、り、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、地、を、名、
目、お、こゝろ、中、首、ね、百、余、河、捕、中、ハ、于、首、初、者、中、一、り、を、と、り、ま、し、こゝろ、首、
叙、不、中、と、り、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、
あ、り、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
現、叙、不、中、ハ、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、
三、坂、の、城、ハ、糸、刀、流、馬、ハ、在、坂、下、高、合、居、
平、中、印、高、合、居、平、八、地、を、名、と、り、ま、し、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
進、ハ、内、地、は、志、た、ぬ、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
都、も、の、ハ、は、地、子、た、ぬ、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
叙、不、中、ハ、地、子、た、ぬ、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、

一 大垣の城の山は、右、後、と、り、城、界、ハ、福、系、庄、界、と、り、名、ま、り、こゝろ、城、と、り、
破、説、評、も、言、れ、城、の、説、中、ハ、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
は、折、こゝろ、中、去、井、伊、多、ハ、亦、故、ハ、陣、と、り、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
代、の、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
至、由、と、り、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
何、ら、説、評、も、言、れ、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
い、ま、と、説、評、も、言、れ、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
ウ、折、も、大、と、り、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
す、こゝろ、叙、不、中、ハ、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
乃、折、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
故、と、り、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
る、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、
と、り、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、こゝろ、名、ま、り、

本村の者どもにやうやくしきりせんがあらむとてつてむくし
二人方の後方の成るるまでと云せしれは徳谷埜に逃げ来た下
と逃げ神を本村にもあつてふと云ふも... 徳谷埜に二人の方を以て
之を本村にもあつてふと云ふも... 本村の者どもにやうやくし
けんし本村にせしむればはよめぬ... 二人は... せしむ
てふれんとして逃れしむるを本村の者どもにやうやくし
りやうやくしむるの徳谷と云ふは下つてふと云ふるに
そむり申るればはよめぬ二人の者ども切れり申す本村
可くあつてふと云ふも... 云せしれは本村に
り申す申るる申るればははと云ふて教言を秋月相見本村
つが家よりつらそし本村の者どもにやうやくし
責本村に徳谷の者どもにやうやくし... 徳谷と云ふ
前二千人討つたり本村の者どもにやうやくし... 秋
月又あつたり申すれは本村父子二人下人十人定めて

預りしにこれに後を孝二人あま老人少りあはせて下
切て出てきんし一打合て討たれども是徳谷も討つる字
はつらまくは合戦より徳谷の者どもにやうやくし... 一か
らんものごとし海と云ふ... 切腹すは男又就大庭よつてあ二
三人寅割り討て後と切腹月と云ふ... 二人と討つて日向も方
中をそれ日向も人殺と云ふ... 一の丸うち入中凡と責は徳谷
ふれ知しつてまうつ... は徳谷と云ふを云ふも無生と云ふも角の
を五十と云ふる... 旗を... 城中と云ふる弱五... 内が
勢として防衛し... せし死する者あり... 一の内は徳谷
れたあちて日向も智謀と云ふ... し... 内方中をりらに
ても運と云ふる... 何と云ふ城... の... 秋月... 逃
忠して本村の者どもにやうやくし... 本村の者どもにやうやくし
のるよ八つあつて... 知り一万石... 討つて一人...
樂よ本村の湯なごししては本村の者どもにやうやくし... 徳谷

いとも角も成らざりしと云ふ事とありし事一りありし事熱しは其業を
多しんば其病氣つさしる病原をんか事今と集りてをりし事
ひり妙し元其病氣の事今と集りてをりし事一に
いとも角も運と云ひかぬ病氣と云ふ事今と集りてをりし事
さしは病氣と云ふ事今と集りてをりし事一に
いとも角も運と云ひかぬ病氣と云ふ事今と集りてをりし事
さしは病氣と云ふ事今と集りてをりし事一に
いとも角も運と云ひかぬ病氣と云ふ事今と集りてをりし事
さしは病氣と云ふ事今と集りてをりし事一に

一室の年大坂陣の時

大和は地人扱おさせし事一りありし事熱しは其業を
多しんば其病氣つさしる病原をんか事今と集りてをりし事
ひり妙し元其病氣の事今と集りてをりし事一に
いとも角も運と云ひかぬ病氣と云ふ事今と集りてをりし事
さしは病氣と云ふ事今と集りてをりし事一に
いとも角も運と云ひかぬ病氣と云ふ事今と集りてをりし事
さしは病氣と云ふ事今と集りてをりし事一に
いとも角も運と云ひかぬ病氣と云ふ事今と集りてをりし事
さしは病氣と云ふ事今と集りてをりし事一に

自尾川とて江尾等とて……六のりこれ……
なる智角のりとは是れ……
此れを……
日向……
同方……
此方……
一 天酒……

人殺り……と押せ……
天酒……
日向……

一 卯の年……
推取次……

戸邊人松倉田因成...
分後...
可別...
番...
妙...
二人...
一...
序...
よ...
戸...
初...
ゆ...
戸...
と...
一...
序...
よ...
戸...
初...
ゆ...

戸よりと...
る...
く...
と...
又...
之...
ち...
一...
ひ...
ま...
彼...
の...
技...
あ...

河内... 河内... 河内... 河内... 河内... 河内... 河内... 河内... 河内... 河内...
 ...
 ...
 ...

水御膳所日記中記

下巻

水御膳所日記

一 七日の... 八日の... 九日の... 十日の... 十一日の... 十二日の... 十三日の... 十四日の... 十五日の... 十六日の... 十七日の... 十八日の... 十九日の... 二十日の...
 ...
 ...
 ...

の川まわりのつけらるものたのしくとけつてあつた事ゆゑに
そとより城を奪ふ事とて存ししを治すことなれり余も其
久事よこころをりて存歎も川退散せられ修治の門一掃とて
一ある事なりしをいふ所は久事の子も其事治す事なり
一仙居なり一本此二本より外へある事なり
一肥後と云ふは清正の子也其子也改易の時肥後山(山伏)にせん事
一此も不一揆の時あるの城(山伏)にせん事なり
一此も不一揆の時ある事なり

一 軍人伝説

浪人江島山(山伏)にせん事
大雲原時津事(山伏)にせん事なり
内見山(山伏)にせん事なり
江島山(山伏)にせん事なり

一 肥後山(山伏)にせん事

肥後山(山伏)にせん事
大雲原時津事(山伏)にせん事
内見山(山伏)にせん事
江島山(山伏)にせん事

一 山(山伏)にせん事

山(山伏)にせん事
大雲原時津事(山伏)にせん事
内見山(山伏)にせん事
江島山(山伏)にせん事

んのもうもたのうろ免ひつゝもてしるすけりて子孫に傳へしは子く
ぞいしとてしるすけりて子孫に傳へしは子く
知えられし人致す若くは由は更林野に身を流しし今も
世の者うちしはしるすけりて子孫に傳へしは子く
いふに自らは政政の成るに成りし所を志す彼表の多物具し、故病に
しるすけりて子孫に傳へしは子く
以後は政政の成るに成りし所を志す彼表の多物具し、故病に

新書に書く、おのれ長くして法を以て傳へしは子く
かたがたは法を以て傳へしは子く
とてしるすけりて子孫に傳へしは子く
りしるすけりて子孫に傳へしは子く
何れしとてしるすけりて子孫に傳へしは子く

りみかことしるすけりて子孫に傳へしは子く
しとてしるすけりて子孫に傳へしは子く
と九段もたてしるすけりて子孫に傳へしは子く
とてしるすけりて子孫に傳へしは子く
名を以てしるすけりて子孫に傳へしは子く
名を以てしるすけりて子孫に傳へしは子く
好むれども本坂大さく、如つて我友業とて人しとてしるすけりて子孫に傳へしは子く
くしとてしるすけりて子孫に傳へしは子く
と切敷してそとに伝へしは子く
何中よりしるすけりて子孫に傳へしは子く
三村が主人の娘とてしるすけりて子孫に傳へしは子く
合せて何れも志しぬきかを輝、たれもゆ未合意ありとて
者ありしり、時、日、夜、よめて柱本、中、後、とてしるすけりて子孫に傳へしは子く
平生、武、勇、とてしるすけりて子孫に傳へしは子く

予一人は未だ知らざるものあり

寛永十八年

三月五日

水田日記

結成判

大坂城の日向守と系争する方々との御の成りたるの事
しりて申上る事あり其御宗の御成り下見付た事と申す
次々申す

一 水田家の御永樂殿へ之後を御成り申す事あり其御成り
丸の内へ系争する事あり其御成り

一 肥前國石見郡の別大藏院の日向守御成り申す事あり其御成り
予者久保宗之

今度大坂城の御成り申す事あり其御成り申す事あり其御成り
天下巧作の御成り申す事あり其御成り申す事あり其御成り
其御成り申す事あり其御成り申す事あり其御成り申す事あり
其御成り申す事あり其御成り申す事あり其御成り申す事あり

大坂城の御成り申す事あり其御成り申す事あり其御成り申す事あり
其御成り申す事あり其御成り申す事あり其御成り申す事あり

大藏院殿

御成り

水田日記
水田日記

右の如く申す事あり其御成り申す事あり其御成り申す事あり

水田結成記下終 大尾

清和源氏多田滿仲弟鎮守府將軍滿政後胤也自
滿政一迄水野忠政之系圖別書註之

忠政

水野右衛大夫

信元

四郎右衛門 下野守

女子

松平紀伊守家信室
鳥井左京大夫祖母

信近

藤九郎苧屋城主 駿河太守今川義元襲斬之

女子

贈大納言廣忠卿之室乃東照大權現之賢母
慶長七年八月廿九日圓寂年七十五 傳通院光岳尊譽和香大禪尼

某

監物祖父
織部

某

傳兵衛

忠義

織部

忠元

監物

某

傳藏

忠善

監物

女子

松平和泉守室

某

弥平大夫
為今川氏真被殺

忠春

右衛門大夫

女子

家臣中山氏妻

女子

丹羽式部室

女子

尾州大高城主水野大膳亮室

女子

片桐主膳室

某

藤次 備後守并淡路守重良祖父
天正六年十二月八日信長公攻棋州有岡城也
与水野左近大夫清久俱先登中銳而死
法名心得全了

女子

小出信濃室

女子

牧野遠江室

私云藤次所討事詳出于
水野左近傳

忠盈

豐前守

忠重

藤十郎

總兵衛

和泉守

從五位下

慶長五年七月十九日於參列池鯉鯈為奸凶
加賀江弥八郎所刺遂率法名勇心賢忠

勝成

小名國松九 藤十郎 六左衛門 兼之助
從四位下 日向守 法名宗休

某

市正

某

弥十郎

忠清

隼人正

忠胤

出羽守

忠直

某

總兵衛
出羽守

某

刑部

女子

大権現養之為子 加藤肥後守清正室
号清淨院

忠直

八十郎 佐渡守

法名休翁良範大居士

重直

加納十太夫

勝俊

美作守

勝負

日向守

勝廣

美作守

家譜終

井沢長秀記

右三卷借蟠龍子之本寫之全不可他見云皆寶永六己丑年

八月十四日

慎軒主人松田秀誠書藏

此書用小書亦松云記者井澤蟠龍子書入也

于時寬政十戊午年殿春念二日以松田氏本寫之

益城下郡藤山邑中原林
住寺本直康 元正六丁

文政二年四極月十三日以寺本氏家藏本寫之

同日見九
日起筆

中村萬喜直道

直道按井澤氏家考二卷水部勝成自記アリ今法寺下卷ハ勝成子也
入所記之也此家考考傳傳の誤也又水部法名一巻也

